

濱口梧陵を題材にした防災啓発フードメニューの開発とその経緯 Development of Food Menu with the Theme of Hamaguchi Goryo and Its Process

○藤本 一雄¹, 田尾 真由美¹, 木村 栄宏¹, 室井 房治¹, 梅津 佳弘²
Kazuo FUJIMOTO¹, Mayumi TAO¹, Hidehiro KIMURA¹,
Fusaji MUROI¹, and Yoshihiro UMETSU²

¹ 千葉科学大学

Chiba Institute of Science

² 絶景の宿 犬吠埼ホテル

Inubohsaki Hotel

This study reported the development of food menu with the theme of Hamaguchi Goryo who has been famous for a model of “Inamura-no-Hi” (fire of rice sheaves) which is the story on the prevention of tsunami disasters. The world cafe style discussions on the subject of disaster awareness strategy by utilizing the achievements of Hamaguchi Goryo during and after the 1854 Ansei-Nankai earthquake tsunami disaster were conducted. Based on one of the most outstanding ideas through the discussions, we developed the food menu with the theme of Hamaguchi Goryo and held tasting event of the food menu at Inubohsaki Hotel in Choshi city, Chiba prefecture. A questionnaire survey was conducted for the participants in the tasting event and the results were analyzed.

Keywords : Hamaguchi Goryo, Inamura-no-Hi, food menu, tsunami disaster prevention, tasting event

1. はじめに

東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸部を襲った津波により、数多くの犠牲者が生じた。今後、南海トラフ地震の津波発生による甚大な被害が懸念されている。津波災害に対する防災教材の一つとして、従来、「稲むらの火」が用いられてきた¹⁾。「稲むらの火」は、戦前の国語教科書に掲載されていたが、最近では、特に東日本大震災以降、「稲むらの火」の逸話だけでなく、そのモデルの实在の人物である「濱口梧陵」についても数多くの教科書で取り上げられている²⁾。

教科書以外の教材としては、児童文学、教育紙芝居、人形劇、絵本、アニメーション、歴史マンガ、民話などがある³⁾。これらの教材は、児童・生徒などの子どもを対象としたものがほとんどである。今後、地域の防災力を高めていく上で、若者や女性への啓発を通じて、防災への参加を促すことの必要性が指摘されている⁴⁾。そこで、若者や女性に対しても、「稲むらの火」の逸話やそのモデルの「濱口梧陵」を通じて、防災意識の啓発・高揚を図ることが必要であろうと考える。

以上を踏まえて、本論文では、若者・女性の防災意識を啓発するための方策の一つとして、「稲むらの火」のモデルである濱口梧陵に着目し、濱口梧陵を題材にしたフードメニューの開発に至るまでの経緯について報告する。

2. 濱口梧陵について

濱口梧陵は、1820年、紀州の広村(現在の和歌山県広川町)で生まれた。濱口家は、1645年から江戸と銚子(現在の東京都と千葉県銚子市)で醤油醸造業を営み、現在も銚子市に本社がある「ヤマサ醤油」として経営を続けている。濱口家の当主は、紀州と江戸・銚子を往復して経営にあたるのと家憲に従い、梧陵は、1831年から銚子に行き、他の丁稚とともに働いた。

梧陵が広村に戻っていた1854年12月23日(旧暦11月4日)の午後5時頃、安政東海地震が発生し、大きな揺れが広村を襲った。梧陵と村人たちは、津波を警戒して広八幡神社に避難して、一夜を明かした。翌日の午後4時頃、安政南海地震の大きな揺れが広村を再び襲った。梧陵は、津波の襲来を予見して、村の人々に逃げるように



写真 1-1 広村堤防(和歌山県広川町)



写真 1-2 濱口梧陵紀徳碑(千葉県銚子市)

伝えていたところ、津波に襲われて半身を波にさらわれながら、かろうじて広八幡神社まで退いた。日が暮れて暗くなると、梧陵は、逃げ遅れた人々の捜索に出かけた。逃げる人たちの目印にと稲むらに火をつけて、人々を高台(広八幡神社)へと導いた。

安政南海地震の津波から避難した後、梧陵は、炊き出しや被災者用の小屋の建設、農耕具・漁具の配給などの救済に取り組むとともに、津波を防ぐための堤防建設事業に取り組むことを決意した。この事業の目的は3つあり、1. 将来の津波から村を守るため、2. 津波で職を失った村民に堤防建設の仕事を与えて生活を安定させることで、村民の流出を防ぐため、3. 重い年貢がかかる田畑を堤防の敷地として使用することで、村民の負担を軽減するため、である。堤防の建設は1855年2月から開始され、その費用は、梧陵がすべて負担すると紀州藩に申し出ていたものの、1855年の安政江戸地震で江戸の店が大損害を蒙ったため、資金の調達が困難となった。しかし、広村の出身者が多い銚子の店では、過去最高の生産高を達成して、合計で約2000両を広村に送金した。1858年に広村堤防(高さ5m、長さ約650m)は完成した(写真1-1)。広村堤防は、その後、1944年の昭和東南海地震や1946年の昭和南海地震の津波に対しても効果を発揮して、広村は大きな被害を免れた。その後、梧陵の生涯の事績・徳行を称えた記念碑が、広村(1893年)と銚子(1897年)にそれぞれ建立された(写真1-2)。

3. ワールド・カフェの実施

濱口梧陵は、上述した防災の分野での功績だけでなく、防疫・防衛の分野でも顕著な功績を残している²⁾。そのため、危機管理学部を有する千葉科学大学の学生にとってロールモデルとすべき人物と言える。また、千葉科学大学が所在する千葉県銚子市とも縁のある人物であることから、筆者らは、濱口梧陵の功績を千葉科学大学の学生に周知するとともに、銚子市の住民にも広く周知した

いと考えていた。

そこで、これまでに、筆者らは、2015年3月に銚子市内で「濱口梧陵シンポジウム」⁵⁾を企画・開催したり(写真2-1)、2016年2月の防災啓発イベント「銚子ぼうさい教室」(主催：銚子市、千葉科学大学、NHK千葉放送局)の中でも濱口梧陵を取り上げたりしてきた(写真2-2)。

(1) 第1回ワールド・カフェ

まず、「濱口梧陵のすばらしさを大学生に広く知ってもらうために、私たちにできることは何でしょうか？」をテーマとして、ワールド・カフェの形式で大学生に話し合ってもらった。ワールド・カフェは、「知識や知恵は、人々がオープンに会話をし、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考えに基づいて、メンバーの組み合わせを変えながら、4~5人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる話し合いの手法である⁶⁾。日時は2016年11月8日、参加者は大学生(当時3年生)13名である(写真3)。

当日のプログラムは、オープニング(濱口梧陵の説明):15分、第1ラウンド:25分、第2ラウンド:25分、第3ラウンド:25分、休憩:10分、全体セッション:30分である。ワールド・カフェの標準的な進め方に従い、第1ラウンドから第2ラウンドに移行する際、テーブルホスト以外は、別のグループに移動し、第2ラウンドから第3ラウンドに移行する際、テーブルホスト以外は、元のグループに戻ることにした。

以上の話し合いの結果、各人からのアイデアとして、「濱口梧陵に関する講義を行う」「Twitterで濱口梧陵に関する情報を発信する」「濱口梧陵カレンダーを作成する」などが出された。その他のアイデアの中で筆者らが最も関心を寄せたのは、「濱口梧陵定食(メニュー)を作る」であり、具体的なメニューとして、濱口梧陵のエピソードを生かして、「堤防カレー」「稲むらサラダ」「醤油ジェラート」を提案したものである。なお、「堤防カレー」は、ご当地カレーとして全国各地で人気を博している「ダムカレ



写真 2-1 濱口梧陵シンポジウム



写真 2-2 銚子ぼうさい教室



写真 3 第1回ワールド・カフェの様子

ー」⁷⁾⁸⁾に着想を得たものである。

(2) 第2回ワールド・カフェ

第1回ワールド・カフェでのアイデアを発展させるため、「『濱口梧陵定食』のメニューを具体的に考えよう」をテーマとして、前回と同様に、ワールド・カフェの形式で話し合ってもらった。日時は2016年12月13日、参加者は大学生(当時3年生)16名、社会人4名である(写真4)。話し合いをする際、1. 濱口梧陵の防災に関するエピソードをイメージできること、2. 千葉県銚子市と和歌山県広川町の特産品を使用すること、3. 若者や女性が興味を持てること、との条件を考慮してアイデアを考えてもらった。当日のプログラムは、オープニング(濱口梧陵の説明):15分、第1ラウンド:15分、第2ラウンド:20分、第3ラウンド:30分、発表:10分である。

以上の話し合いの結果、「堤防カレー」については、さばカレー(銚子市の特産)、シーフードカレー(銚子産)を使用する、デザートについては、醤油(銚子市の特産)とミカン(広川町の特産)を組み合わせたものとする、メニューの提供価格を1,105円とする(津波防災の日:11月05日に因んで)などのアイデアが出された。



写真4 第2回ワールド・カフェの様子

4. 試食会の開催

これまでのワールド・カフェで発案された濱口梧陵を題材としたフードメニューに関する各種のアイデアを、「絶景の宿 犬吠埼ホテル」の料理スタッフに伝えて、フードメニューの試作をお願いした。同ホテルに試作を依頼した理由は、これまでも防災活動に意欲的・継続的に取り組んでいるためである⁹⁾。フードメニューの試食会を、2017年3月24日に「絶景の宿 犬吠埼ホテル」において開催した(写真5-1)。試食会の参加者は、ヤマサ醤油株式会社、銚子地域雇用創造協議会、報道関係者(新聞記者)などである。試食会で提供されたメニューは、「堤防カレー」「稲むらサラダ」「醤油パウンドケーキ」「スープ」の4品である(写真5-2)。

「堤防カレー」(写真5-2 左下)は、堤防に見立てたマッシュポテトがライス(陸地)とカレールー(海)の間に盛られている。「稲むらサラダ」(写真5-2 右上)は、すりおろしたニンジンと銚子名産の固形醤油「ひしお」で作った赤色のドレッシングで、稲むら(サラダ)を燃やす炎を再現している。デザートのパウンドケーキ(写真5-2 右下)は、生地に「ヤマサ醤油」の醤油を使用している。

試食会の参加者にアンケートを実施したところ、14名から回答が得られた。今回のフードメニューに対する意見・感想(自由記述)を尋ねた結果を表1(a)に示す。「味」の面では、「おいしい」が5件(「とてもおいしかったです」「大変おいしく頂きました」など)であった。「見た目」の面では、「色彩」が5件(「彩りがとてもよく、目で見ても楽しめた」「色の使い方が鮮やかでよい」など)、「オシャレ」が3件であった。「値段」の設定に関しては、「リーズナブル」が5件(「津波防災の日にちなんで1105円でこのクオリティだったら、多くの人に食べてもらえると思う」など)であった。

つぎに、「今回のフードメニューの提供を通じて、濱口梧陵のことをより深く知ってもらうには、どうすればよいと思いますか」を自由記述で尋ねた結果を表1(b)に示す。「ランチョンマット」が6件(「濱口梧陵の功績を印刷したランチョンマットを配布する」など)であった。これは、試食会の途中で、ある1人の参加者が「ランチョンマット」のアイデアを発案・発表し、このアイデアにその他の参加者も賛同したためと考えられる。その他には、パンフレットや箸袋を利用するアイデアが出された。

また、「今回のフードメニューの提供を通じて、防災に対する興味・関心を持ってもらうには、どうすればよいと思いますか」について自由記述で尋ねた結果を表1(c)に示す。「説明者(語り部)」が3件(「提供する際の説明があると、より関心を持つことに繋がるといった」など)であった。その他には、お土産(防災グッズなど)を配布する、といったアイデアも出された。



写真5-1 試食会の様子



写真5-2 開発したフードメニュー

表1 試食会参加者へのアンケート

(a) フードメニューに対する意見・感想

味	<p>【おいしい】とてもオシャレで、とてもおいしかったです。／コンセプトの「濱口梧陵を知ってもらうこと」の中で、「食」と関係すると「おいしさ」は重要です。今回のランチは本当においしくて、グルメな人も納得すると思います。／味に関しては、大変おいしく頂きました。／彩りがよく、おいしかったです。／大変工夫されていて、おいしかったです。</p> <p>【その他】味: カレーはもう少し辛くてもいいか(個人的)／カレーが甘口もあったらいいなと思いました。／小・中学生への関心も増やしたいところですので、甘口カレーやデザート類も用意できたら素敵だと思います。</p>
見た目	<p>【色彩】見た目: きれい、うまさう、色の使い方が鮮やかでよい／見た目が華やかで、興味を引く。／とても良いと思いました。色彩等もキレイで。／彩りがとてもよく、目で見ても楽しめた。／彩りがよく、おいしかったです。／彩りもきれい。</p> <p>【オシャレ】予想していたよりもオシャレな料理で満足できる内容の料理でした。／とてもオシャレで、とてもおいしかったです。／非常に洗練されたメニューで、女性にもうけそう。</p> <p>【その他】思っていた以上の豪華な定食でした。</p>
値段	<p>【リーズナブル】値段: ちょうどよい／津波防災の日にちなんで1105円でこのクオリティだったら、多くの人に食べてもらえと思う。／1105円のGORYOランチ、ボリュームたっぷり、とてもお得でした。／ボリュームがあり、リーズナブルで理想的。／2500円くらいの価値があると存じます。</p>

(b) 濱口梧陵をより深く知ってもらうには？

<p>【ランチョンマット】ランチョンマットの制作を早くしなければと思います。／ランチョンマットに梧陵翁の功績や料理の説明を載せて、味わって、勉強して、楽しんでもらいたい。／ランチョンマットに梧陵の功績を載せる。／ランチョンマットで説明書きを加えると、より深く知って頂けると思う。／ランチョンマットを作成中と伺ったので、良いアイデアだと感じた。／メニュー紙に濱口梧陵の解説を記入する。</p> <p>【パンフレット】今回の料理に説明書(紙、映像、人、パンフレット)のようなものを作る。／料理と一緒に、梧陵さんがどのような方であったか、知っていただくため、プリントなどの簡易的な物を作成する。／食べることで自然と銚子を意識することができ、そこにパンフレットなどが加われば、より良いと思った。／小さなしおりとかいわれを書いた小さなパンフなど。</p> <p>【箸袋】箸の袋に梧陵の情報を書いて、知識を得てもらう。／箸入れの袋に、梧陵の略歴などを印字する。</p> <p>【その他】梧陵さんのマスコットを作る。／料理の説明とともに、梧陵さんの情報を載せたPOP類があると良いかも。</p>
--

(c) 防災への興味・関心を持ってもらうには？

<p>【説明者】語り部が必要かもしれないが、ビデオなどで代用しても。／過去の災害をもとに、どのように防災をしてきたかお話をし、・・・／今回、料理長からメニューの説明があったように、提供する際の説明があると、より関心を持つことに繋がると思った。</p> <p>【お土産】お土産を配る(簡単な防災グッズ、メニューを保存食のようなものにしたレシピを見せる)。／このランチを食べた方に、特典として防災グッズやハンドブックを付けるなども良いと思う(コストにもよるが・・・)。</p> <p>【その他】お弁当にする(堤防カレー弁当)。／お客様がビックリするような仕掛けがあると面白いかも(例として、実際に火を使ってみるとか?、壺焼きなどで使用する、塩と卵の卵白を活用する?)</p>

5. まとめ

本論文では、若者・女性の防災意識を啓発するための方策の一つとして、津波防災の逸話「稲むらの火」のモデルである濱口梧陵に着目し、ワールド・カフェ形式での話し合いを通じて、濱口梧陵を題材にしたフードメニュー(堤防カレー、稲むらサラダ、醤油パウンドケーキ、ス

ープ)を開発するに至るまでの経緯について報告した。

今後は、試食会での参加者からの感想・意見などを参考にして、実際に濱口梧陵を題材にしたフードメニューを一般の方(若者・女性など)に提供し、防災意識の啓発・高揚に関する効果がみられるのか検証を進めていく予定である。

謝辞

第2回ワールド・カフェには、社会人として、銚子市地域雇用創造協議会 宮内沙織氏・遠藤美穂氏、ヤマサ醤油株式会社 富成浩静氏、銚子市消防本部 土井香寿美氏にご参加いただいた。絶景の宿 犬吠埼ホテルの関係各位には、フードメニューの試作品の作成にご協力いただいた。記して謝意を表する。

参考文献

- 1) 佐藤 健・佐藤喜代・戸田芳雄：出雲神話「スサノオとヤマタノオロチ」を用いた防災教材に関する研究開発ー自然の災害と恩恵の二面性からの追及ー，安全教育学研究，14(1)，pp.27-37，2014.
- 2) 藤本一雄・木村栄宏・伊永隆史・室井房治・戸塚唯氏：危機管理教育の教材としてみた濱口梧陵の功績とその再評価，安全教育学研究，17(1)，2017。(掲載予定)
- 3) 加藤詔士：「稲むらの火」の教材化をめぐる考察，愛知大学教職課程研究年報，第1号，pp.15-30，2011.
- 4) 内閣府：防災白書(平成28年版)，日経印刷，2016.
- 5) 木村栄宏・藤本一雄・伊永隆史・室井房治：濱口梧陵シンポジウム開催報告ー銚子の偉人の功績と千葉科学大学の教育研究方針とのアナロジーー，千葉科学大学紀要，第9号，pp.173-181，2016
- 6) 香取一昭・大川 恒：ワールド・カフェをやるうー一話がつながり，世界がつながる一，日本経済新聞出版社，2009.
- 7) 松澤 秀樹：ブランド想起機能を活用した地域の認知度を向上させる手法についてー長野県大町市における黒部ダムカレーの取り組み，地域ブランド研究，第6号，pp.33-37，2011.
- 8) 森下 剛：安威川ダムカレー企画の報告，梅花女子大学食文化学部紀要，第4号，pp.36-50，2016.
- 9) 藤本一雄・吉田賢希：訓練参加者が発見した不測の事態を組み込んだシナリオ型防災訓練，地域安全学会梗概集，No.40，pp.173-174，2017.